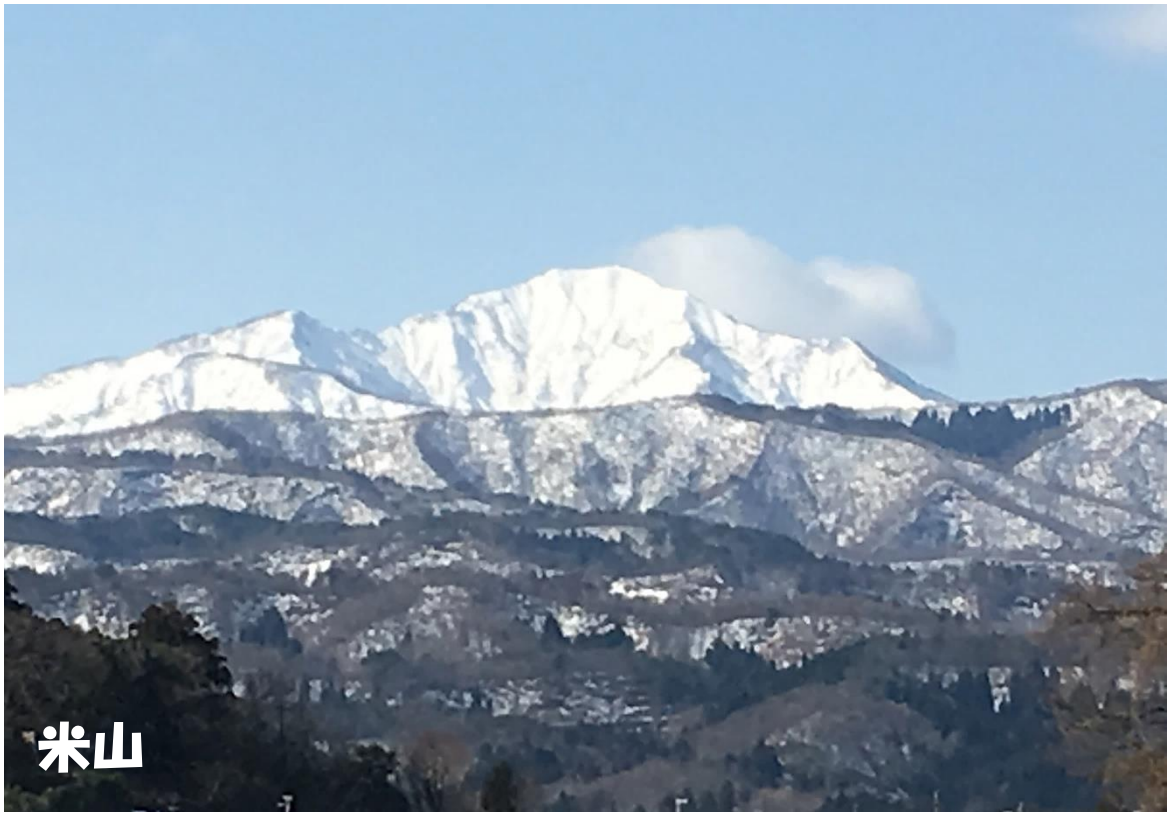
かしわざき

教育センター・育成センター所報

GALILEI



CONTENTS

○今月の巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１

★あれから５年

教育センター運営委員

新潟工科大学 工学部 環境科学科 准教授 小野寺　正幸

○教育センターだより ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ２

★アクセス（教育研究班） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ２

★プロジェクト Ｋ（科学技術教育センター）・・・・・・・・・・ Ｐ６

★心の窓（教育相談班） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ８

○４月の行事予定表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ１１

○所員随想「つれづれ」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ１１

★安心してください！聞いてますよ　　教育相談係　　片山　紀子

○所報ガリレイの発行月の変更について・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ１２

平成２８年３月号

柏崎市立教育センター　柏崎市青少年育成センター

今月の巻頭言

あれから5年

教育センター運営委員
新潟工科大学　工学部
環境科学科 准教授　小野寺 正幸

あれから5年が過ぎました。2011年3月11日午後2時46分。当時、我が家の子供は、中2と小6で、たまたま出雲崎小学校PTA会長をさせていただいた関係上、私自身は出雲崎町役場の2階の会議室での会議に出席していました。長い横揺れが続き、少しして地震では？と、会議が中断し、いったん全員が屋外の駐車場へ避難しました。ちょうど小学校の子供達の帰宅時間と重なり、会議も中止となったことから一旦自宅へ戻り、その時に町役場から子供達を全員帰宅させるとの放送がありました。自宅が海の近くでしたので、こちらへ帰すより小学校にいた方が安全と考え、小学校や町役場に電話しましたが、当然のごとく電話はつながらず、ともかく自宅にて待機していました。幸い、津波も50cm程度でほとんど影響はありませんでしたが、中越地震や中越沖地震の教訓は生かされず、学校・役場・保護者も右往左往状態でした。しばらくして、東北地方では地震とその後の大津波で被害が甚大であることを知りました。続いての福島第1原子力発電所の水素爆発による放射性物質の自然界への飛散による放射能汚染は周知の通りかと思います。

約2年後の2013年1月に所用で亡父の故郷である仙台へ訪れた時は、中心街では2年前に大きな地震があったことなどわからないほどでした。昨夏、縁あって第65回全国高等学校PTA連合会大会岩手大会に参加する機会を得て、盛岡へ行って来ました。大会終了後、盛岡から宮古、さらに三陸海岸の国道45号線を南下し、仙台、山形経由で自宅に戻りました。今から約30年前の学生時代にバイクで八戸から三陸を南下して以来の三陸でした。海岸では巨大な防潮堤の建設が行われている箇所や、かつて家が建っていた基礎部分の中に雑草が生い茂っている所、廃墟と化したビルの址、仮設住居や仮設商店、まだまだ復興道半ばと思われるところが多くあることを自分自身の目で再認識しました。

陸前高田市では、高台造成地からの土砂を海岸地区のかさ上げのための土砂の運搬に巨大ベルトコンベヤーを設置し、夕方でしたが、私が訪れた時も稼働していました。最初、見たときは何かの鉱物でも採掘するためのものかと思っていましたが、「奇跡の一本松」を見た後、この巨大ベルトコンベヤーが高台造成地からの土砂の運搬に使われているとの説明板に気づきました。そして、この復興のシンボルに陸前高田の子供達が「希望のかけ橋」と名付けたことも知り、自然と涙腺が緩んでしまったことを今も思い出されます。

この5年の歳月の中で、場所によって復興の進み具合がまったく異なっていることを知り、こんな状況で 4 年後に東京でオリンピックを開催すべきなのか改めて疑問がわいてきました。皆様も是非ご自分の目で東日本大震災の被災地を見に行っていただければと思います。

教育研究班

ア　ク　セ　ス

■Ｈ２７年度研修講座をふりかえって

H27 年度、176 講座、4153 人の教職員等のみなさんから利用していただきました。講座の概要と皆さんからいただいた建設的な意見を集約してみました。◇＝参加者の振り返り文より抜粋。

確かな学力の育成

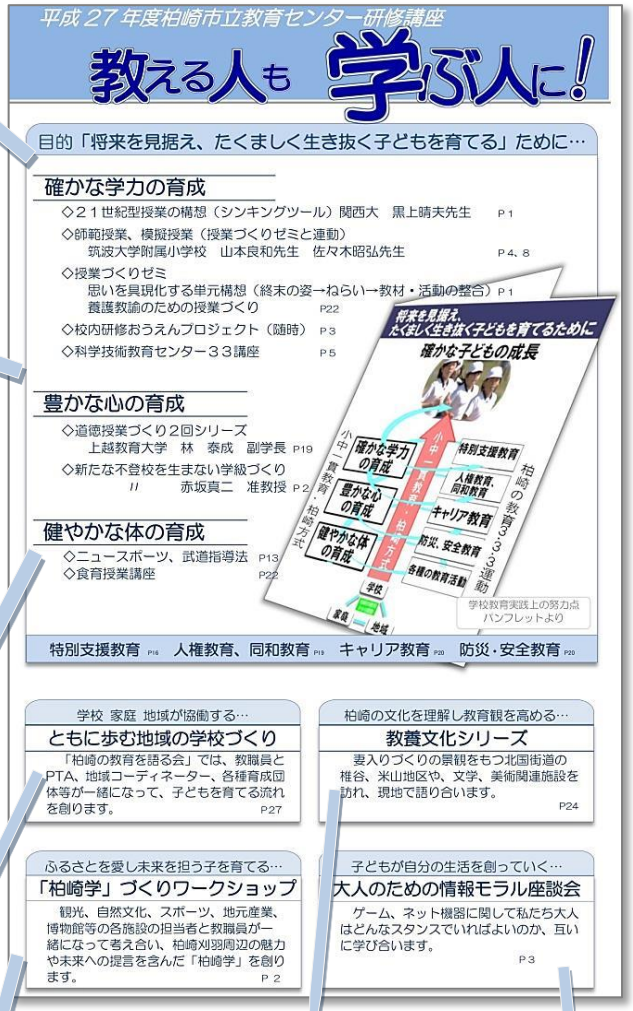
・関西大学、黒上晴夫先生
・筑波大学附小、山本良和先生
・　　〃　佐々木昭弘先生をお招きしました。
◇子どもの内面から出てくる疑問や問いをみんなの問いにしていく妙を目前で見ることができました。
◇予想と異なることや考えのズレは、問題意識を高めるきっかけになるんだと思いました。

豊かな心の育成

・上教大学副学長、林泰成先生
・〃　　教授、赤坂真二先生をお招きしました。
◇柏崎市内の先生による授業公開を見ることで、道徳の授業づくりの理論と実践をセットで学ぶことができました。
◇自分だけでなくみんなで良くなっていこうという気持ちを大事にした学級経営は、ＥＳＤの視点と同じで教育の目的に迫るものでした。

健やかな体の育成

・ニュースポーツ、武道指導講習会
・食育授業講座
◇実際の授業ですぐに試すことができる内容でとてもタイムリーな講座でした。
◇仲間同士で指導案を揉むということがとっても大事なことなんだなあ、と実感しました。来年度も続けてほしい講座です。



学校、家庭、地域が協働する…ともに歩む地域の学校

・学校支援地域本部事業にかかわる講座では「新潟県立生涯学習推　進センター、小林朋広様をお招きしました。
◇模擬的に学校、家庭、地域の協働活動を考えることを通し臨場感ある学びになりました。

柏崎の文化を理解し教育観を高める…教養文化シリーズ

・北国街道（椎谷、米山町）
・ドナルドキーンセンター、三余堂、木村茶道美術館めぐり
◇柏崎にこのような場所があったとは知りませんでした。また参加したいと思います。

ふるさとを愛し未来を担う子を育てる…「柏崎学」

・１回目（７月）：ふるさとへの愛着と誇りを持ち、既存の価値をコラボし新たな価値を生むアイディアを出し合いました。
・２回目（１０月）：魅力あるまちづくりや産業の活性化について考えました。

子どもが自分の生活を創っていく…情報モラル

・中学生メディア共同宣言や、情報モラル指導資料集作成と並行し、大人のための情報モラル座談会を実施しました。
◇保護者と先生が一緒になって悩み解決策を探っていく過程が大事だと感じた時間でした。

■Ｈ２７年度最後の研修講座　Ｗｅｂミュージアム活用講座

２月２６日金曜日　講師：企画政策課　山本　康太　氏

この講座では、まず企画政策課 山本康太さんからＷｅｂミュージアムの魅力、基本操作を説明していただき、次に、試験導入校の田尻小学校中村昭弘先生から活用事例を紹介していただきました。そして、参加者が実際にタブレットでＷｅｂミュージアムを操作しながら、冊子「わたしたちの柏崎」とのそれぞれの利点を生かした活用例を話し合いました。

受講された先生方からは、「タブレット（Ｗｅｂ）ならではの良さが分かりました。」「画像や動画がとてもきれいで、しかも簡単に見られるのは魅力的だと思いました。」「調べ学習の入門に良いと思いました。」など、今後の活用への期待を感じる感想が多数ありました。（平成２８年度も、Ｗｅｂミュージアム活用講座を６月ころ開催する予定です。（小学校社会科副読本「私たちの柏崎」活用講座と共に）

山本康太氏、中村昭弘先生、講座の様子

Ｗｅｂミュージアムのトップ画面

■Ｈ２８年度研修講座に向けて

重点１　２１世紀型能力の育成を目指す魅力的な単元構想や一時間ごとの授業づくり

① アクティブラーニングの推進など、次期学習指導要領を踏まえ、各教科・領域で主体的協働的学びが実現できるよう、具体的な指導プランを作成できる力を育成する講座を設定します。

② 参加型体験型研修会…講義形式のみではなく、実際に体験をしたり、グループワークをしたり、参加者の主体的な研修や交流を工夫します。

③ 連携共催型研修会…学校教育研究会、各種団体など、他の組織との連携により実施することで、各種団体の主体性を大事にします。

④ デジタル教科書等ＩＣＴ機器利用促進に向けた、模擬授業を含む活用講座を開設します。

⑤ 親和的建設的人間関係に満ちた集団作りにかかわる講座を開設します。

重点２　ともに歩む地域の学校づくりの推進

「ともに歩む地域の学校づくり」が柏崎市内でさらに大きな流れになっていくよう、柏崎市の全ての中学校区で展開されている学校支援地域本部事業にかかわる講座を設定します。また、地域の方々も参加し、教職員と一緒になって考えながら「教育の当事者」としての意識を高める講座も設定します。

重点３　ふるさと柏崎を愛し誇りに思う気持ちを育て、郷土の発展に寄与する人材育成にかかわる講座
柏崎の魅力を知り柏崎への貢献心を養う「未来志向の柏崎学」

海あり山あり、古くから街道が通り物資や人が行き交う文化都市だった柏崎は、また、石油、エネルギー、ものづくり産業などの町としても発展してきました。今、子どもたちが、これらの魅力を学び、柏崎への愛着と誇りを深めることはとても大切なことです。

それらの学びをもとに、未来の産業の活性化や定住人口を増加させる人材の育成を図るようにします。教育委員会では、このように柏崎の魅力を学び、未来の活性化を図る人材育成教育の総称を「未来志向の柏崎学」として推奨していきます。

光りが降り注ぐ「海の柏崎」

■ 柏崎教育情報支援システム/コンテンツサーバ情報

資料を登録しました

◆コンテンツサーバ（スクールオフィス）

実施日	講座名／資料名
2/24	スクールオフィス年度更新講習 NO11_年度更新講習.pdf（第 6.1 版）

登録日	講座名／資料名
2/24	校務 PC スタートアップテキスト_V2.pdf

◆コンテンツサーバ（ポリシー/サポート関連）

登録日	資料名
3/12	H27 教職員用情報セキュリティチェックシート.docx H27 学校用情報セキュリティチェックシート.docx

◆コンテンツサーバ（教育委員会資料）

登録日	資料名
2/25	ALT News Letter 第 46 号
3/14	カリキュラム表_ver2_h28.xlsm（中学校の教科書改訂対応版）

■ 情報関連講習会のご案内

4 月に実施される講習会

◆H28.4.4(月) スクールオフィス新任者講習（養護教諭向け）

市外からの転入または新任の養護教諭向けに、スクールオフィスと、保健管理システムの概要と、年度のスタートにあたって最低限必要な業務について学習します。

◆H28.4.4(月) スクールオフィス新任者講習（管理者向け）

市外からの転入または新任の管理者向けに、スクールオフィスの概要と、年度のスタートにあたって最低限必要な業務について学習します。

◆H28.4.11(月) スクールオフィス新任者講習（事務職員向け）

市外からの転入または新任の事務職員向けに、スクールオフィスの概要と、グループウェアおよび文書管理サブシステムの使い方について学習します。

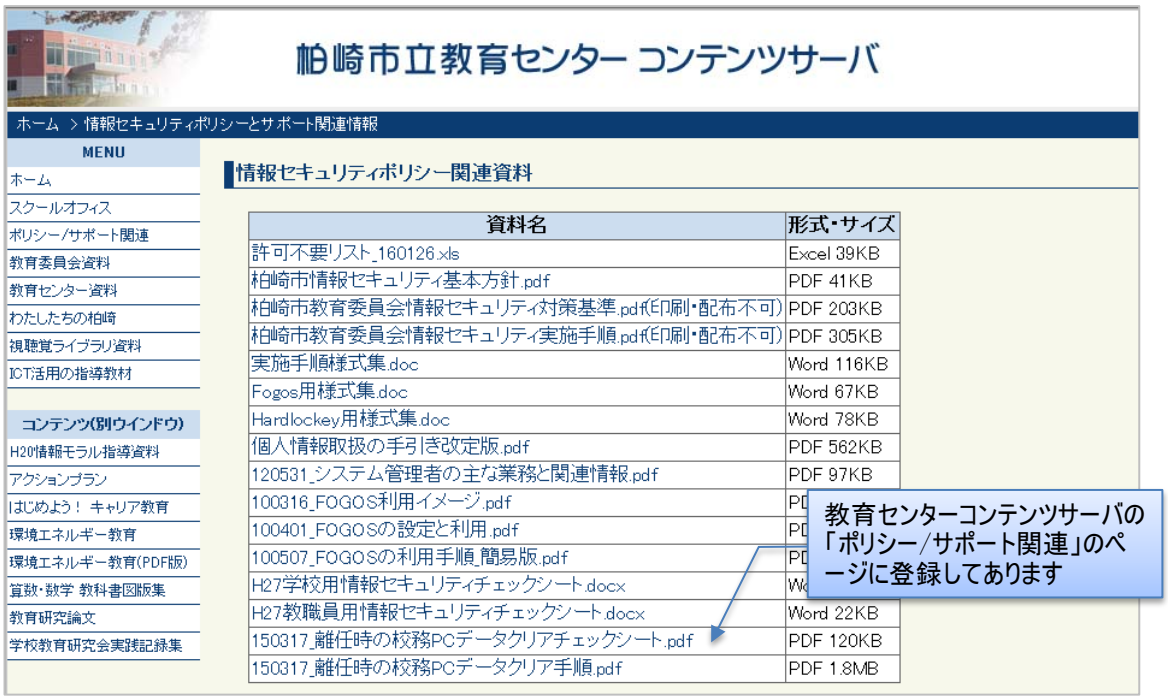
◆H28.4.13(水) スクールオフィス新任者講習（学籍担当者向け）

市外からの転入または新任の学籍担当者向けに、スクールオフィスの概要と、日々の健康観察の入力手順と保健管理の健康観察マスタとの関連性、出席簿の作成手順について学習します。

■ 校務 PC、スクールオフィス情報

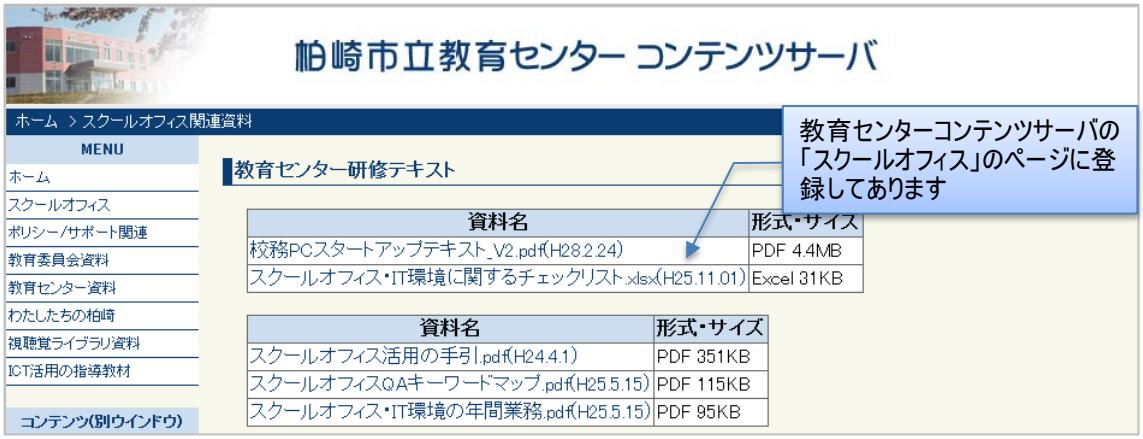
校務 PC について、転出時に必要な手続きを確認してください

校務 PC を割り当てられていた教職員が転出する際には、校務 PC を次の利用者にスムースに引き継ぐために、自分でインストールしたアプリケーションのアンインストール、変更した設定の復元、保存したデータの削除をお願いしています。必要な手続きを確認するチェックシートと、具体的な手順を説明した資料を用意してありますので、確認の上、適切に処理してください。



校務 PC スタートアップテキストを活用してください

市外からの転入者向けに、すぐに知っておくべき内容をまとめたテキストを用意しました。柏崎市の環境がどうなっているか、校務 PC を使い始める際に必要な情報や設定、情報セキュリティポリシーに関する情報など、チェックシートを兼ねた作りになっています。



■ セキュリティ情報

セキュリティホール情報

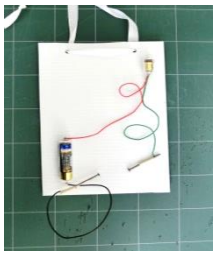
マイクロソフトより、3 月 9 日付で 3 月の定期更新として、Windows などの重要な更新が公開されました。最大深刻度「緊急」が 5 件、「重要」が 8 件です。まだ Update が済んでいないようでしたら、至急 Windows Update などを実施していただくようお願いします。

Internet Explorer 11 へのアップデートが開始されました

3/14 から校務 PC への Internet Explorer 11 の配信が始まっています。「いつまでも IE11 にならない」「スクールオフィスの画面表示がおかしい」などの問題がありましたら、教育センターにご連絡ください。

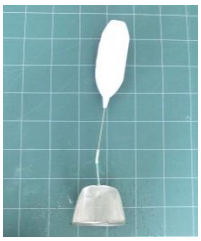
【教材紹介】

今年度、要望に合わせて作った教材や、購入した教材、貸し出しの多かった教材を紹介します。来年度の教材準備の参考にしてください。



○簡易テスター「ピカリくん」（製作）

１月１４日の筑波大学附属小学校教官　佐々木先生の授業で使用した、小学３年生の通電を調べる道具です。教科書と全く同じ仕様になっています。現在は２６台ありますが、相談いただければ、人数に合わせて用意することも可能です。



○わたあめ作成機（製作）

１００円ショップの道具を用いて、わたあめをつくってみませんか。科学実験クラブなどの内容として扱うことができます。原料は砂糖だけなので、アレルギーの心配も少なくなると思います。

○ビースピｖ（購入）

中学校のエネルギー変換の実験でよく使われるビースピｖを新たに購入しました。地点ごとの速さを調べるためには複数台必要になります。ビースピ ｖ4台、ビースピ（旧）４台、計８台ありますので、ご活用ください。

○デジタル温度計（貸し出し数Ｎｏ１.）

カルメ焼きの温度測定などに活躍しました。科学クラブでカルメ焼きをする際にはご活用ください。

○キャベツの苗（提供多）

小学校３年のモンシロチョウの観察のために、キャベツが必要になります。今年度、センターでキャベツの苗を飼育し、約１００株を希望した学校に提供いたしました。来年度分も２００株を目標に育てています。

○川の実験用人工石（提供多）

小学校５年の流れる水のはたらきで石が丸くなることを確かめるため、石膏の人工石を作っています。班の数に合わせてご用意しますので、ご連絡ください。

新年度の授業準備は進んでいますか？

○薬品点検、理科準備室の整理整頓を！

・薬品点検を行いましょう。

年度当初の理科主任会でも、年３回の薬品点検をお願いしています。理科準備室の整理と年度初めの薬品点検を行い、保有薬品量を把握しましょう。

・ペットボトル等での薬品の保管は極力避けましょう。

ペットボトル等の食器用容器での薬品の保管は極力避けましょう。やむを得ない場合は、容器に内

容物が何であるのか明記しましょう。食塩や砂糖など、食品をそのまま実験で使う場合には、誤飲誤食を防ぐため、容器を移し変えるか、実験用であることを明記する必要があります。

・実験器具の点検をしましょう。

実験器具は次に使うことを考え、きれいに洗浄して、使いやすく整頓しましょう。通常の洗浄では、集気ビンなどに付着した白い汚れや、染色液による汚れはなかなか落ちません。理科主任の先生を中心に、作業日を決めて計画的に実施しましょう。

※器具の取扱い、薬品の管理などについて、ご不明な点があればいつでもお問い合わせください。

○年間の野外観察等の予定を検討しましょう

年間を見通して地層観察会や星空観察会などの日程を検討し、年間計画に予定を入れておきましょう。プラネタリウム授業、放射線教育も同様です。要請研修を希望される場合には、早めにご連絡ください。

～小学校の先生方へ～

早いうちに用意する必要のあるものをあげてみました。チェックして新年度に備えておきましょう。

＜3年生＞	
○キャベツ苗	モンシロチョウに卵を産ませます。早めに苗を入手しておきます。 **センターでも苗をつくっています。順調に生育しましたら、今年度と同様、希望する学校に差し上げます。**
○ヒマワリ、ホウセンカの種	種まきの時は、水につけるなどして発芽率を高めましょう。
○棒温度計、虫めがね、遮光板、方位磁針	壊れているものがないか確認し、数を補充しておきます。方位磁針は、南北が反対になっているものを直しておくことも必要です。
＜4年生＞	
○ヘチマの種	ヘチマは発芽率が低い場合があるので、予備を多めに用意しましょう。
○温度計、百葉箱（記録温度計）	晴れの日、雨の日を調べます。週間予報で天気を確認し、天候に合わせて学習を進められるように早めに用意しておきます。
＜5年生＞	
○インゲン豆、ヘチマ、アサガオの種	インゲン豆はつるなしのものを準備します。ヘチマ、アサガオは７月の単元（実のでき方）ですが早めに育てておきます。
○メダカ、水草	メダカは飼育用具が必要です。特に飼育水槽にはメダカを入れる数日前から水を循環させておくようにしましょう。
○ヨウ素液	褐色のビンに入れ、冷暗所で保管しておきます。
＜6年生＞	
○種イモ（ジャガイモ）	ホームセンターや種苗店で売っているものから育てます。 （GWの頃には売り切れてしまうことも…）
○ホウセンカ	６月頃の単元（植物の養分と水）で使います。育てておきましょう。
○ロウソク、マッチ、線香	マッチ箱の側面（側薬）も消耗品です。使えるか確かめておきましょう。
○燃焼さじ	針付き、針なしがあります。班の数は用意しておきましょう。
○集気ビン（底あり、底なし）	白い汚れは薄めた塩酸で洗うときれいになります。燃焼実験の時、フタはガラス製のものは使えません。（木片とアルミ箔で作っておきましょう。）
○石灰水	専用の容器を決めて、作り置きしておくと便利です。
○実験用気体ボンベ	酸素、二酸化炭素、窒素をそれぞれ班の数＋２～３本用意しておきます。
○気体検知管	酸素、二酸化炭素用を予備も含めて、少し多めに準備しておきます。

今年度も数多くの事業にご協力いただき、誠にありがとうございました。
来年度もよろしくお願いいたします。

平成２７年度　柏崎市立教育センター　　教育相談班だより　３月号

心の窓

No.１９９

〒９４５－１３５５
柏崎市大字軽井川４８０３－２
ＴＥＬ　0257(23)4591（代表）
ＦＡＸ　0257(23)4610
E-mail　soudan@kenet.ed.jp

教育相談班　今年度をふりかえって

≪カウンセリングルーム≫

H27 年度のカウンセリングルーム来室相談は、1 月末で相談件数 672 件、相談人数 216 人となっており、昨年同時期と比較して件数で 3%の増加、人数で 19%の増でした。

増加の主な原因としては、今年度、特別支援教育会議の判断対象児に対して知能検査の実施を積極的に協力したことが挙げられます。

相談内容の内訳では「不登校」に関する相談人数が最も多く、次いで、「発達障害（通常学級）」となっていて、ここ数年間と同様の種別件数の傾向です。

相談事例の傾向としては、発達障害が疑われる集団不適応の事例や発達の特性を伴う不登校の割合が増加していることが挙げられます。対応法も、カウンセリングだけにとどまらず、医療受診への繋ぎから家庭環境の調整に至るまで非常に多岐にわたっており、それに伴い、スタッフが関係機関と連携を取ったり支援会議に参加したりすることに多くの時間を費やすようになっています。

(1)　年代別面接相談件数【(　)内は新規人数】

	幼　児	小学生	中学生	高校生	教員・一般	合　計
面接件数	44 (21)	367 (120)	231 (63)	20 (3)	10 (9)	672 (216)

(2) 内容別面接相談件数【(　)内は新規人数】

	就学相談	通常学級発達障害	特支学級発達障害	不登校	いじめ	非行	集団不適応	心身不調精神障害	親子関係の問題	合計
面接件数	46 (23)	207 (73)	89 (36)	264 (62)	7 (2)	4 (2)	6 (4)	41 (9)	8 (5)	672 (216)

(3) 発達障害児のソーシャルスキルトレーニング（SST）「いろいろ体験グループ」実施状況

	前　期				後　期				計 (延べ)
	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	第８回	
小学生グループ(実施日)	13 人 (5/1) (5/8) (5/15)	14 人 (6/5) (6/12) (6/19)	15 人 (7/3) (7/10) (7/17)	12 人 (8/7) (8/14) (8/21)	18 人 (10/2) (10/9) (10/16)	16 人 (11/6) (11/13) (11/20)	15 人 (12/4) (12/11) (12/18)	16 人 (1/8) (1/15) (1/22)	119 人 /24 回
中学生グループ(実施日)	15 人 (5/21) (5/22)	16 人 (6/25) (6/26)	17 人 (7/30) (7/31)	17 人 (8/27) (8/28)	13 人 (10/22) (10/23)	17 人 (11/26) (11/27)	16 人 (12/21) (12/22)	16 人 (1/28) (1/29)	127 人 /16 回

（文責　教育相談係長　小林　東）

≪ふれあいルーム≫

平成２７年度は、４名の通級生でスタートしました。年度途中に通級生が増え、中学１年生が３名、中学２年生が５名、中学３年生が４名の計１２名となりました。

２月２９日には、中学３年生最終通級日ということで、中学２年生以下の通級生が知恵を出し合い、楽しい三送会を開いて、中学３年生を見送ることができました。

ふれあいルームでは体験活動を重視し、いろいろな体験を通して人と接し、かかわる機会を増やすことで、協調性や信頼感を高めるとともに、少しずつ自信や存在感を取り戻しています。年度当初に通級していた通級生が、年度途中から学校復帰（部分復帰）できるようになり、２月末現在では、８名が学校復帰（部分復帰）することができました。再登校への意欲が低かった児童・生徒が、早めに当ルームに通級を開始することで、学校復帰につながっていることも多いため、学校訪問相談員やカウンセラーから通級への誘いを積極的に行ってもらっています。

通級生が毎日安定して通級していないにもかかわらず、少人数集団で気心が分かるため、目あての一つである「通級生同士のかかわり合い」が学年の枠を超えてスムーズに行われるようになってきています。

課題としては、朝すっきりと起きられないことや、バス等を利用して自力で通級できない通級生にとって保護者の送迎が難しいことが考えられます。また、中学生が多いことから、学習指導や進路指導などの難しさもあることから、学校や学級担任との連携を深め、協力を得ながら通級生の支援を行うことが重要と考えます。

今後も、学校・保護者と連携して、通級生への支援を図っていきたいと思います。

≪２７年度の体験活動から≫

（笹だんご作り）

（茶道体験）

（バス課外：上越）

（博物館見学）

（陶芸体験）

（そば打ち体験）

（スケート体験）

（ツリー作り）

（ヨガ体験）

（スキー体験）

（バス課外：新潟）

（文責　ふれあいルーム指導員　　神林　治男）

≪学校訪問相談≫

平成２７年度学校訪問回数は６２回でした（平成２８年３月１８日現在）。内訳は、定期学校訪問３２回、要請学校訪問２０回、同道訪問１０回でした。この他、「スクールサポート巡回相談」の専門委員の一員としての訪問等が、２４回ありました。

下の表は、定期訪問・要請訪問での相談内訳です。

（１）定期訪問での相談内容の内訳（小学校２０校、中学校１２校）　※（　）内の数字は昨年度

相談内容	特別支援（通常学級在籍）	不登校傾向 不登校	学級経営 学習指導	生徒指導	特別支援（支援学級在籍）	その他
件数 割合	２１件（26） ４１％（40）	１４件（22） ２７％（34）	６件（7） １２％（11）	３件（4） ６％（6）	５件（5） １０％（8）	２件（1） ４％（1）

（２）要請訪問での相談内容の内訳（要請回数２０回：小学校２０回、中学校０回、件数：３１件））

相談内容	通常学級における特別支援 学級経営・学習指導	不登校傾向 不登校	生徒指導	特別支援（支援学級在籍）	その他
割合	１７件　５６％（２３件, 79%）	９件　２９％（４件, 14%）	２件　６％（０件, 0%）	１件　３％（０件, 0%）	２件　６％（２件, 7%）

上の表を見ますと定期訪問では、通常学級に在籍する特別支援を要する児童生徒に関することが約４割を占め、続いて不登校に関することの相談が約３割になっています。しかし、小・中別に見てみますと、小学校では、通常学級に在籍する特別支援を要する児童生徒に関することが約５割、学級経営・学習指導に関することが２割弱で、合わせますと７割弱に及びます。一方中学校では、不登校に関することが６割弱を占めています。これにより小・中学校における課題の違いが分かります。

要請訪問では、小学校の課題を受けた形で、通常学級における特別支援、学級経営・学習指導に関する内容に関わる訪問が主になっておりますが、昨年に比べ、不登校傾向・不登校に関する相談が倍に増え、長期化が懸念されます。なお、同一校に継続的に訪問をしたケースが複数校ありました。

このような状況の下、各学校では、チームとして児童生徒・保護者を支援するなど、学校体制として取り組んでいる様子がうかがえ、学校の並々ならぬ努力が感じられます。今後も、課題に対し学校体制で取り組むとともに、全ての教職員が発達障害特性の理解を一層深め、授業改善やケースに合わせた具体的な策をもって児童生徒・保護者に対応することが大切と考えます。

学校訪問相談でも、関係機関と連携を図りながら、学校のニーズに合ったより具体的な相談・支援を行っていきたいと考えております。

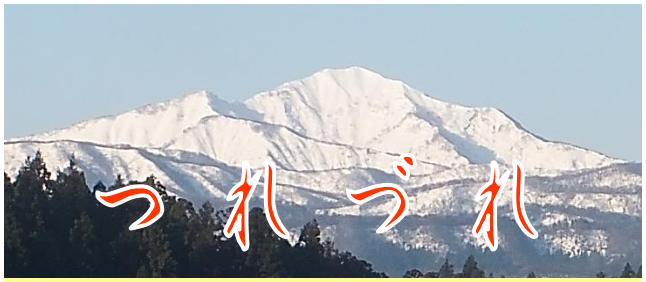
（文責　学校訪問相談員　春川　稔）

◇◆◇◆◇◆

４月の行事予定表

日	曜	研修・行事・会議
1	金	辞令交付13:30-
2	土	
3	日	
4	月	情:S0転入新任者講座（養護教諭向け）13:00-　（管理者向け)15:00- 相:班会議13:00-
5	火	
6	水	
7	木	ふ：前期前半通級開始
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	情:S0転入新任者講座（事務職員向け）14:00- ふ：再入級確認面談～13日まで 相:班会議13:00-
12	火	
13	水	情:S0転入新任者講座（学籍担当向け）15:30-
14	木	ふ：ソフィアセンター10:00-
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	昭和の日
30	土	

研・教育研究班　　科・科学技術教育　　相・教育相談班
ふ・ふれあいルーム　情・情報教育研修　育:育成センター



所　員　随　想

安心してください！聞いてますよ

教育センター　　片山　紀子

我が家は毎日にぎやかです。と言えば聞こえがいいが、はっきり言って「うるさい」。何デシベルあるのか計測したいぐらいである。

原因は、３人の子どもである。上から７才、５才（息子)、２才 (娘) といて、３人が同時にしゃべる。我先にとしゃべるから、声がだんだん大きくなる。

差別をしているつもりはないが、２才の娘の話を聞いていると、次男が「僕の話を聞いてくれない。」と泣き出す。長男は空気も読まず、しゃべり続ける。この状況が最大にうるさくなる瞬間だ。

何とかしてみんなの話を聞いてあげたい。そこで最近やっているのが「とりあえず相槌だけは打つ」というもの。正確には、話を聞いているふりをしているだけなのだが「へぇ～」「そうなの？」「すごいね！」など、それらしい言葉を返す。時におおげさに。何て言ったかよくわからないときもあるが、今のところばれてはいない。

子どもたちは、聞いてくれているとわかるだけで満足するらしく、最大にうるさくなる瞬間が少しは減ってきたように思う。「絵本を読みながら」「宿題を見ながら」相槌を打つという高度なテクニックが必要なときもあるが、これも最近は上達してきた。いつもうまくはいかないけれど。

でもね、本当はお母さん、ひとりずつゆっくりお話し聞きたいんだよなぁ・・・

ガリレイ発行月変更のお知らせ

先月号でもお知らせいたしましたが、平成 28 年度から教育センター　青少年育成センター　所報「ガリレイ」の発行月を以下の通り変更いたします。ご理解をお願いいたします。

【発行頻度の変更】

平成 27 年度まで所報「ガリレイ」は毎月発行で、紙に印刷したものを学校、コミセンなど関係機関等に配布してまいりました。これを、平成 28 年度からは四半期ごとの年４回発行にいたします。

毎月発行　→　四半期ごと、年４回発行

【発行方法の変更】

印刷物での配布を最小限にし、電子データを市ホームページ等で配信するように変更します。現在も市ホームページで「校務支援システム」と検索し、このトップページ左上に過去のものまで掲載してありますが、これに加え、市ホームページでも閲覧いただけるよう検討します。

【変更の理由】

以下の理由から、変更することといたしました。

〇全庁的に業務改善活動に取り組む必要がある。
〇「広報かしわざき」も月 2 回発行から月 1 回発行に変更。
〇厳選した情報のみを発信したほうが、より効果的。
〇電子データでの配信が一般的になったこと。
〇印刷費の縮減、人員減への対応。

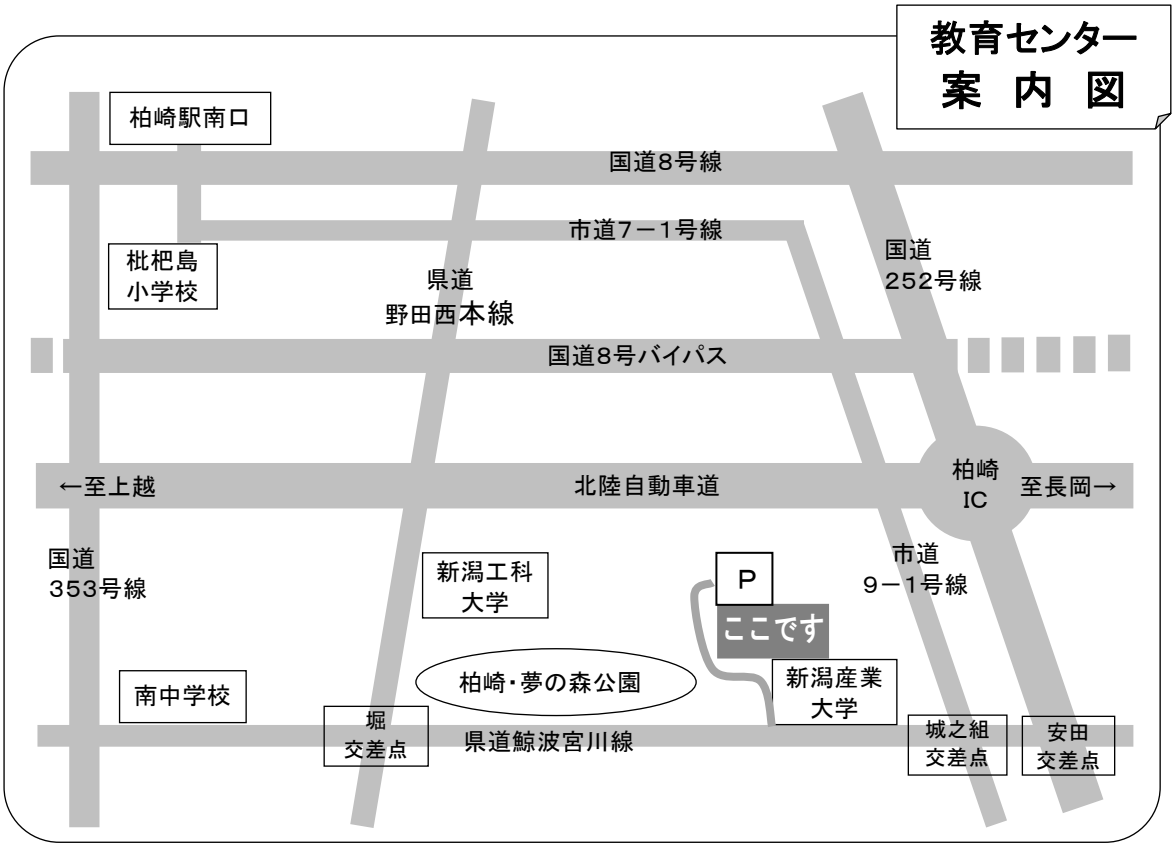
【研修講座等の情報発信】

教育センター研修講座などのタイムリーな情報発信は、個別に情報校務支援システムなどで必要な方に届くように配慮する。

【その他】

〇2 月 17 日開催の「教育センター運営委員会」において説明。異論がなく終了した。
〇市業務改善計画発表会・表彰式において、教育委員会代表としてこの取り組みを発表・表彰された。

教育センター業務改善計画発表
市長から表彰を受ける。



〒945-1355　柏崎市大字軽井川４８０３番地２（新潟産業大学キャンパス内）

※路線バスは、柏崎駅南口から新潟産業大学行きをご利用ください。

※車でお越しの方は、キャンパス内では徐行をお願いします。

電子版の閲覧

イタリアの天文学者ガリレオ・ガリレイのたゆまぬ創造と検証の精神にちなみ、教育センター所報を「GALILEI」と名づけています。

インターネット(カラー)版は、柏崎市HPで「柏崎市教育情報支援システム」を検索し、この支援システムトップ画面右上の所報「GALILEI」をクリックすると過去のガリレイも閲覧できます。

教育センター代表ＴＥＬ：０２５７－２３－４５９１
代表ＦＡＸ：０２５７－２３－４６１０
E-mail：k-center@city.kashiwazaki.lg.jp
教育研究班・情報教育ＴＥＬ：０２５７－２３－１１６８
E-mail：kec@kenet.ed.jp
教育研究班（科学技術教育）ＴＥＬ：０２５７－２０－０２１２
E-mail：kagaku@kenet.ed.jp
教育相談班（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞﾙｰﾑ）ＴＥＬ：０２５７－３２－３３９７
E-mail：soudan@kenet.ed.jp
教育相談班（いじめ不登校電話相談）
ＴＥＬ：０２５７－２２－４１１５
青少年育成センターＴＥＬ：０２５７－２０－７６０１
E-mail：ikusei@city.kashiwazaki.lg.jp
教育情報支援システムURL：http://kedu.kenet.ed.jp

平成２８年３月発行